

## 子どもが主役の楽しいクラブを！

南のNEWS、読んでくださっていますか。子どもの活躍、成果と課題、南の基本的な考え方等、いつも掲載しています。如何でしょうか。

昔、南にも保護者の当番制がありました。コーチの弁当も作ってくるのです。でも、それでは土・日も営業をしているお店の子どもはクラブに入れなくなるといことで当番制も弁当もなくなりました。

南の指導者が土・日の休みにグラウンドに出てくるのは子どもたちが喜ぶ顔、輝く瞳を観たいからです。元気な子どもたちと共にサッカーを楽しめればいいのです。子どもたちの成長を見届けることが何よりの喜びなのです。

08・11・1(土)  
南NEWS NO29

お家の人のお手伝いは、なければいけないのです。

勿論お手伝いをしてくださることは心強いし、仲間を

感じて、とても嬉しいし、有り難いのですが。

ここで、4月の5日(土)付NEWS no1に掲載した南の基本的な考え方を再度掲載いたします。

.....どの子にもサッカーを楽しむ中で

“友を思いやる優しさ”

“やらなければいけないことをやり抜く強さ”

をもつ子に育ててほしいとの願い・目標をかかえてクラブの運営をしていきます。

3年生までは“だんごサッカー”で、“どの子も試合の半分は出す”“失敗を怒ることなく、トライしたことを認め励ましていく、小さな進歩でも誉めて自尊・他尊の感情を育む”ことを大切にしていきます。

勉強もサッカーも自分のめあてをもって努力して自分を育てる子、チームのめあてをもって育ち合う子、自分で判断し選択できる子、そのために本を読む子、目を見て話を聴くことができる子、あいさつ、お礼、返事のしっかりできる子、が育つように子育てのお手伝いをします。

地域の大人、お兄さんがボランティアで指導するクラブ、南八王子サッカークラブです。子どもたちを輪の中心にして、お家の人や後援会のみなさんの応援、ご協力を得ながら、“できる人ができる範囲で”“やりたい人がやれる範囲で”を原則に、仲良く、楽しく活動をしていきましょう。

これからできる限りの工夫をしようと思いますが、今年も役員さんの負担を少なくしようと努力していきます。車の手配も大変です。環境問題もありますので、できるだけバスや電車で会場に行きます。昔は総てそうだったのです。バスや電車で行ったときは、台数の制限はありますが車で応援に来ることも結構です。でも、用事がある場合を除いて、子どもさんはチームメイトとバスや電車ですることになります。

以上、よろしく願いいたします。.....

クラブの運営で疑問点、こうした方がよいのではという提言がある方は矢上まで直接連絡下さい。待っています。車出しのお礼の件も6年生の方から出されたものを今年度から採用しています。

子どもたちのためのクラブです。子どもが育つより良いクラブ創りにみんなで力を合わせていきましょう

矢上が勤務していた学校の学校便りに書いたものです。サッカーチームの指導、運営にもあてはまります。必要な基本理念です。

## 認めて励まし、誉めて励ます

矢上 健一

私が読んだ本に次のようなことが書いてありました。

キーワードはSPELL(イギリスの自閉症協会)

Sはstructure:構築する。対象児のよい面が出るのはどのような状況かを教師がデータ等を取り、把握し、その状況・環境を構築する。

Pはpositive:積極的によいところを認め、励まし、ほめる。

Eはempathy:共感する。子どもの困り感、その子の言動の裏にある思いに共感する。配慮する。トラブルを起こしたとき、起こしそうなときは、どうしたらよかったか、どうしたらよいかを一緒に考える。

Lはlow arouse:その子が達成しやすい課題・指示を与えることで学習や課題への取りかかりを促す。

Ex、お絵かきをしている子にいきなりやめなさいというのではなく

「その絵を描き終わったら、漢字を3文字練習しようね。」

と言う。

最後のLはlinks:対象児と共にあることはもちろんですが、保護者・地域と学校の連携、関係諸機関との連携・協力、報・連・相を常に心がけ、学びあい、spellのレベルを上げることが大切。

私は、このSPELLは、すべての子に当てはまるキーワードだと思います。教育の基本であると考えます。

また、こんなことも言われています。

“人間の脳が活発に働くときは

自分の存在が認められたとき

自分が役に立ったとき(有用感を感じる時)

誉められたとき

楽しいとき( のときも楽しくなりますよね)

の以上4つです。”

ですから学校はSPELLの世界の構築を常にめざし、どの子にとっても、職員にとっても楽しい所であればいけないのです。

楽しい気もちで学習し、生活してもらうために教職員は努力しています。学級便りも学年便りも学校便りも子どもたちの良いところにスポットを当てて誉めることが多くなります。それは、教職員が子どもたちの言動に感動し、嬉しいなと思ったことをお家の人にも知らせ、共に喜び、お子さんを誉めて励ましてもらいたいと思うからです。それが次への意欲向上になるからです。

子どもたち一人一人に教育目標の具現化をめざし、トラブルや課題が生じることなく、全て誉めることばかりになってほしいと教職員は日頃努力しているのです。SPELLの世界の構築を心がけながら努力しているのです。思うようにいかず、お家の人や地域の方々にはやきもきさせていることもあると思いますが、本校の教職員は全力を尽くしています。

上の文章の学校をサッカークラブ、職員をコーチ・保護者、学校便りを南のNEWSと読み替えて読んでください。

コーチでサッカーに関する本を読み合い、指導教則本のDVDを全員に配り、指導のレベルアップを図り、2ヶ月に1度の指導者会議では子どもたちの成長の様子、成果と課題を出し合い、話し合い、共通理解を図りながら、日頃の指導に反映させています。これも子どもたちにとってのサッカーの環境をよりよくするstructureの努力です。linksを充実させることもよりよい環境創りになります。

